

# ふくよか



2019春号

■長崎県病院企業団本部  
■平成31年4月発行



## 目次 CONTENTS

p2.....企業長より  
平成最後の春に思うこと

p4.....特集①

長崎県病院企業団10周年記念事業  
記念講演、式典等が催されました

p6.....特集② 認定看護師研修会  
企業団発足以来の初の取組です

p7.....郷診郷創  
基幹病院の取組について

p8.....Break Time  
「熱」について

vol.  
19

# 平成最後の春に思うこと

昭和64年1月7日、昭和天皇が崩御された時は、学会の出張で東京にいた。天皇崩御の記者会見から2日間、テレビはCMを抜きにし、歌番組、ドラマ、クイズ番組はすべて姿を消した。ホテルが皇居近くだったこともあり、時間を見つけて皇居まで記帳に出かけたことを鮮明に覚えている。平成の時代は、阪神大震災や東日本大震災など、痛ましい記憶もあるが、日本の経済発展は順調に進み、終わってみると全体としては平穏な時代だったと言えるのかもしれない。しかし、世界的な温暖化や難民問題など当分解決できそうもない問題は、次の時代にその付けをまわしている。

## 脳神経外科医として

以後、自分のことで申し訳ないが平成の30年間を振り返ってみる。ちょうど平成元年の頃、『長崎くも膜下出血研究会』を立ち上げた。県内のくも膜下出血患者の統計を取ってやろうと長崎大学の同門医師に声をかけたのが始まりだ。平成14年に長崎医療センターの院長となった時に、この研究会は後輩に譲ったが、その後も毎年開催されており、もう30回になった。幾度となく脳神経外科の後輩たちが、その分析結果を学会で報告してくれたお陰で、今では脳動脈瘤患者の登録数も1万名を超え、日本一のデータとなった。彼らの頑張りに感謝している。

脳神経外科医としての私の仕事は、その多くが脳動脈瘤とともにあり、600症例以上の手術に携わることができた。今は働き方改革などといって長時間勤務することが制限され、

こんなことを言うと怒られるかもしれないが、その頃は、一度家を出ると数日帰れず、子供から「お父さん次はいつ帰ってくるの？」と言われたことも懐かしい。私としては充実した日々であった。

## 管理職として

平成時代の後半となる、長崎医療センターの院長としての10年間、そして病院企業団の企業長になっての7年間は、充実した日々であった。DPCの導入や電子カルテの立ち上げなど、挑戦の毎日であった。平成のちょうど半ばから、医療安全に対する考え方が始まり、古い体質の日本の医療は、音を成して崩れゆき、多くの公立病院が独立行政法人化あるいは地方公営企業法の全部適用がなされた。新しい日本の医療が立ち上げられた時に私は管理職になった。長崎県病院企業団が設立されたのも、その流れであった。

## 私の「坂の上の雲」

平成23年、院長職も終わりに近づいた時、私が卒業した諫早高等学校の創立100周年記念式での90分の特別講演を依頼された。諫早出身で脚本家の市川森一氏が急に病気になるれたことでのピンチヒッターとしての抜擢であった。それは式典の2週間前であったが、諫早高校の同窓会長と校長のたつてのお願いを断れないまま引き受けてしまったのである。在校生徒と卒業生約千数百名の前で、今の若者に対しての思いを話してほしいと言われていたの

# 企業長 米倉 正大

で、司馬遼太郎の歴史小説の『坂の上の雲』の中で書かれている明治時代の人たちの一途な思いを、自分の人生に重ね『私の「坂の上の雲」』という題で話した。この話の中で「少年の頃の一途な思いが、無意識のうちに人生を決める」という米倉語録を中心に私の周囲に起こった出来事を織り交ぜて講演した。その時、65歳になろうという私が大事にしていることを4つの言葉でまとめた。

- ① 一歩前に踏み出す勇氣
- ② 決断を迫られるときの金銭にとらわれない精神
- ③ 家族や友達との絆
- ④ 一途な思い(少年のころの一途な思いが、無意識のうちに人生を決める)

AIが世の中に浸透してきた今も、尚更この4つのことが重要となっているのではないだろうか。

①についてであるが、**非知之難也、處知則難也**という言葉がある。物事を知るのが難しいのではなく、知ったことを臨機応変に、どう行動にするかが難しいという意味である。わかっているが一歩前に踏み出す勇氣という

のは、AIを頼りにしてもどうにもなるものではない。

次に②は、お金があることに越したことはないが、人生の大事な分岐点での決断は、金銭にとらわれない精神を培っておかないと後で後悔するという話である。

③は仕事に没頭している年齢では、家族や友達との絆といってもピンとこない。人というのは、年を取っていくと仕事のこと以外に、話し合える人が、意外と少ないことに気付く。身近に、いつでも気軽に声をかけられることができる身内や友達存在が、いかに人生を充実させてくれるのかは、年を取っていくとわかる。そのため若いうちから、多くの人と絆を育てることが大事である。

最後に④であるが、これはまさに私の人生そのものである。私が、脳神経外科医を目指したのは医学部卒業の頃であった。その頃、長崎大学には脳神経外科の教室があるわけではなく、近くにもその情報を得る機会もなかったのに、卒業後、米国の大学に留学してまでこの道を進んできた。しかし、どうしてそこまで脳神経外科医にならなかったのかずっと私には理由が分からなかった。その答えが中学生のころに見たピクセン・エドワード主演の『ペン・ケイシー』というテレビドラマや姉から勧められて読んだ『まあちゃんこんにちは』という単行本であることがわかったのはずっとあとになってからである。

これが、私が言う「少年の頃の一念な思いが、無意識のうちに人生を決める」という言葉につながったのである。今では、一途な思いは、いろいろな逆境をも超えるという信念を持っている。このようなことを思い出してみると、平成の30年間は、私の人生にとって最も充実した時代であった。皆さんにとって、平成の時代はどのような時代であったのだろうか。

## 退職者の挨拶



1985年に長崎大学を卒業してから、初期・再・再々研修を除きますと、ずっと長崎県の離島医療に従事してきました。長崎県病院企業団退職後も、対馬で医療ができることに大変感謝しております。今後も、対馬病院の理念であります「対馬の人々が、泣きながら生まれ、健やかに育ち、朗らかに働き、穏やかに老いて、安らかに人生を終えること」ができるよう支援したいと思います。今まで大変お世話になりました。有難うございます。

長崎県対馬病院院長 川上 眞寿弘

私は昭和60年に入職し、本年3月定年退職を迎えることとなりました。

平成3年普賢岳噴火災害大火砕流被災者の対応や噴火活動下での生活は忘れられない体験です。その後、長崎保健看護学校で看護師教育に携わり、再び島原病院へ戻り平成14年には新病院へ移動しました。新設のICU病棟師長、その後医療安全管理や教育担当副看護部長を経て平成23年に看護部長となりました。企業団病院となってからは、高口看護指導監のご支援のもと看護体制・教育の充実と共に、企業団病院の看護部長さん達との連携も深まり楽しく過ごすことができました。平成の時代の終わりと共に役割を終えようとしています。皆様に支えられたおかげです。感謝を申し上げます。

これからも企業団病院が地域の皆様にとって、信頼され愛され必要とされる病院となりますよう心より祈念しております。

(\*ふくよかは原稿もさることながら、表紙の写真もいつも楽しみにしていました。)



長崎県島原病院 副院長兼看護部長 溝田小夜子

Zoom up!

特集①

# 長崎県病院企業団10周年記念事業

長崎県病院企業団は平成21年4月1日に発足し、今年で10周年を迎えます。1月18日・2月23日に関係者の皆様をお招きし、記念事業を開催しました。約100名の出席をいただき、盛会の内に終えることができました。



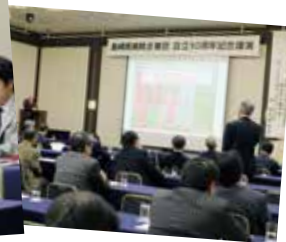
## 記念講演



▶企業団病院が所在する離島地域や県周辺部においては、多角的な診療を行う「総合診療医」が必要です。



▲名古屋大学名誉教授・愛知医科大学特命教授の伴信太郎先生に「これからの医学、医療に求められるもの－総合性と専門性－」と題した記念講演をいただきました。



◀活発な質疑応答もあり、非常に興味深い記念講演となりました。

## 記念式典



▲中村知事・金子参議院予算委員長をはじめ多くのご来賓の皆様に出席いただきました。

▲いかに「縮小の時代を生き抜く知恵と勇気」をもって対応していくか、常に改革が必要です。



▲金子参議院予算委員長



▲中村知事



祝賀会



▲長崎医療センター江崎病院長

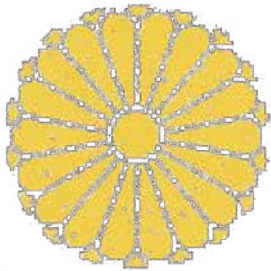


▲壱岐市白川市長

▼長崎大学病院増崎病院長



▼新上五島町江上町長



▲中国の伝統芸能「変面ショー」です。  
一瞬で面を変える技法は国家秘密です。

座談会



▲病院企業団のこれまでの実績や今後の展望、県養成医の研修や定着等について2月23日に座談会を開催し、活発な議論をいただきました。

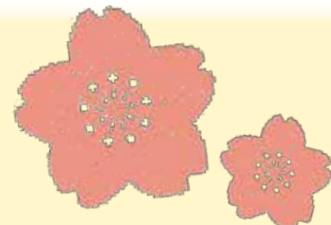
▼塚原近畿厚生局長（元長崎県福祉保健部長）



▲矢野名誉顧問（長崎県病院企業団初代企業長）



人口減少が進展する中、「縮小の時代を生き抜く知恵と勇気」をもって、今後とも離島及び県周辺部の医療水準の確保と経営の安定化に職員一丸となって努力していきますので、引き続きご支援・ご協力をお願いします。





# 平成30年度看護師研修会(認定看護師)

病院企業団設立以来初となる、認定看護師を対象とした研修会が3月8日に開催されました。

基幹病院から計23名の認定看護師が一堂に会し、講演やグループワークを通して病院運営上求められる自己の役割や課題を明確にできただけでなく、他病院の認定看護師との意見交換の機会としても大変有意義な研修となったようです。

## ◎ 各種講演



↑「看護管理者の立場から認定看護師に求めるもの」  
精神医療センター看護部長 山中利文 先生



↑「認定看護師と診療看護師の違い」  
福岡東医療センター診療看護師 庄山由美 先生



←「診療看護師の立場から」  
上五島病院診療看護師 本田和也 先生

### 💡 認定看護師とは？

日本看護協会、または日本精神科看護協会により、特定の分野において熟練した看護技術と知識を用いて質の高い看護を実践できると認められた看護師のことです。

日本看護協会の認定する感染管理、緩和ケアなど21の看護分野、日本精神科看護協会の認定する精神科看護分野があり、各人が認定を受けたいいずれかの分野で高水準な看護を実践するほか、同じ病院内の看護者への指導やコンサルテーションも行います。



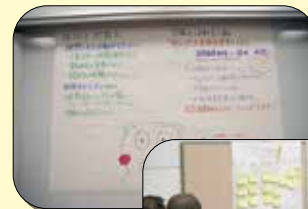
## ◎ グループワーク

テーマ:

- ・ 自施設での活動状況及び問題点
  - ・ 管理者に求めるもの
  - ・ 今後の活動計画
- ほか



↑これまでの各人の経験や当日の講演で考えたことなど、グループ内で活発なディスカッションが行われました。



←話し合った内容は、発表用の模造紙にまとめました。



↑グループ別発表会の様子

本部職員が日常のあれこれをつぶやくコーナーです。

## 本部職員のつぶやき ⑦

総務人事班 西川 由香里

春は、どうしても転勤又は仕事の繁忙期という慌ただしい時期で、ゆっくり季節感を感じることなく過ぎていく方も多いのではないのでしょうか。

私の場合、また今年も桜見物に行かなかった、と後悔することの方が多いのですが、食に関しては、春の味覚、筍・つわ・ふきなどの山菜が出回るのが(山育ちのせいかな)とても楽しみで、これらが食卓に並んだら春が来たなーと実感します。ほかにも、菜の花やアスパラなどなど・・・

旬の食べ物には、春には春の、夏には夏の、人間の体に必要な栄養分や効果が含まれているようで、自然と体が欲するようになってきているのですね。何より、旬だからこそその美味しさを味わう満足感が一番の元気の源になるような気がします。

この春も旬野菜にパワーをもらって、新年度のスタートです。



## 各病院の効果的な取り組みをご紹介します

平成30年に各病院・診療所で取り組んだ事のうち、効果的な取り組みを各施設3項目ずつ取り上げました。地域の皆様に病院企業団を選んで頂く為には

- ① 接遇の強化
- ② 地域の医療機関との連携強化
- ③ 健診・人間ドックの受診日や受診項目の増加
- ④ 広報誌での診療内容を紹介し病院・診療所のことを知ってもらう

以上4点を主に取り組みました。

これらの取り組みを行う事で、病院企業団の事を知ってもらい、地元での受診につなげ、地域外への流出に歯止めをかけたいと考えております。

皆様のご協力をお願いします。

病院名	取組み
精神医療センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇トレーナーの育成</li> <li>・全職員、新任者、委託業者各々を対象とした接遇研修</li> <li>・看護実習生の受け入れ</li> </ul>
島原病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島原メディカル・ケアねっとの活用や、地域の医療機関等との連携強化などによる紹介患者数の確保</li> <li>・DPCⅡ期を意識しながら、地域包括ケア病棟を活用した病棟を超えた柔軟な病床運営及び断らない医療の推進</li> <li>・市民公開講座や健康フェスタの他、地域医療従事者に対する研修や症例検討会、地域連携公開セミナー等の開催</li> </ul>
五島中央病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療局長兼地域医療連携部長をはじめ、関係職員での開業医・診療所・施設の訪問</li> <li>・健診・人間ドックの受診数の増加（受診日・受診項目の増、システムの導入、五島市との連携）</li> <li>・DPC対象病院となり入院単価の増加</li> </ul>
奈留医療センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌の発行</li> <li>・主務者会議による情報共有</li> <li>・「あっぱよレポート」「にこりほっとレポート」による情報共有</li> </ul>
富江病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア病床の設置</li> <li>・訪問看護の実施</li> <li>・オムツのSPD化の実施</li> </ul>
上五島病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算定率向上委員会</li> <li>・健診情報の発信、地域講話活動、土曜日・時間外の健診実施</li> <li>・土日・休日の薬剤に係る医師・看護師の業務負担の軽減</li> </ul>
有川医療センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェネリックの使用促進</li> <li>・特定疾患療養管理料の算定増</li> <li>・接遇研修の実施</li> </ul>
奈良尾医療センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診増に向けたポスター掲示、リーフレット配布及び外来患者への声掛け</li> <li>・中庭に常に花を切らす事がないように努める</li> <li>・正月等のイベントごとに手作り装飾</li> </ul>
対馬病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来部門の人数を削減しつつ、これまでの外来診療を維持</li> <li>・消耗品の定数化、中央管理、種類の整理によるコスト削減</li> <li>・DPC対象病院となり入院単価の増加</li> </ul>
上対馬病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域情報誌「なんじゃもんじゃ地域版」を上対馬町と上県町へ全戸配布（特別診療・特定健診・予防接種の件数増加）</li> <li>・月曜日の午後外来実施</li> <li>・アンケートの実施</li> </ul>
吉岐病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フットケア外来、骨粗しょう症外来、認知症外来などの専門外来の実施</li> <li>・外来常勤医師2名体制による手術件数の増加</li> <li>・院内ラウンドによる環境改善</li> </ul>

## Break Time

### 「 熱 に つ い て 」

今回はいただきもののコーヒーカップに記された「熱」という文字にまつわるお話です。

「熱」という文字には、なんとなく暑苦しい、うっとおしいなどという印象があり、今の若い人たちから嫌がられる言葉かもしれません。私自身も、情熱をもって、などと言うのが格好悪いと考えていた時期がありました。年齢を重ねるに従って、多くの人と一緒に仕事をする機会が増えてくると、関係する方たちを同じ方向に向かせるにはどのようにしたらいいのかということが自分の中で大きなテーマになっていました。

近年、ICTの普及により連絡手段がこれまでの対話や電話によるものからメール中心に移行してきています。メールは確かに便利なツールですが、なかなか気持ち（真意）が伝わらないことも多く、かえって誤解を招くこともたまにあったりして、その使い方にも工夫が必要だと常々感じています。

ずいぶん前に、高校サッカーの指導者として高名なK先生の大臣賞受賞祝賀会に出席し、引き出物として冒頭に紹介したカップをいただきました。その会での先生のご挨拶の中に、私がずっと考えていた他人をどうやって巻き込むかについての答えのようなものがありました。先生は、カップに「熱」という文字を記した理由として、時代が変わって今の若い世代を指導するうえでは自分自身がもう一度本気になっているところを「熱」を持って子供たちに示さないと誰もついて来ない。子供たちは指導者の本気度を見ている。指導者自身が「熱」を示さないといけない、というようなことを述べられていました。

当時、先生のお話を聞いて、気持ちが奮いたったことを思い出します。先生のように何かを成し遂げた人の言葉を直接聞けたことは私にとっては得難い機会でした。先生だけでなく他にも何かを成し遂げた先達の残した著作を拝読すると、人を動かすために必要な事柄を示唆してくれるものがたくさんあります。私もそういう先達に少しでも近づけるよう残された時間をこれからも努力していかなければいけないと思っています。

(文：副企業長 安永 留隆)



### 編集後記

このたびの人事異動で4名の方が本部を去ることとなりました。本部でお世話になった方々とのお別れは名残惜しいばかりです。ふくよかに関して毎回原稿を書いて頂いた安永副企業長、様々な調整等を行って頂いた庄崎補佐、編集作業の全体を引っ張って頂いた小川さんには感謝しています。

松井係長には本部での業務に関して本当にお世話になりました。皆様の新天地での今後一層のご活躍をお祈りしています！

(ふくよか編集担当：F)



ふくよか

表紙のはなし  
名古屋大学名誉教授・  
愛知医科大学特命教授  
伴 信太郎 先生

長崎県病院企業団設立10周年記念  
式典（H31.1.18）でご講演頂きま  
した。「総合診療医」のお話に会場  
の方々も聞き入っていました。

平成31年4月発行  
編集・発行／長崎県病院企業団本部  
〒850-0035 長崎市元船町17-1 大波止ビル7階  
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759  
E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp  
URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>  
上記メールアドレスに記事についてのご意見・ご感想を  
どんどんお寄せください！



長崎県病院企業団

検索